

■児童・生徒の学力の状況

○学習に真剣に取り組む児童が多い。また、自分の考えを表現し、伝え合う活動に意欲的に取り組む児童も多い。しかし、他者の考えと自分の考えを比較したり、根拠をもって予想や推論したりすることに苦手意識をもつ児童も多く、さまざまな事象をなぜだろうと追究するような学ぶ力は身に付いていない。
○児童一人一人の経験や能力、家庭環境による学習の習熟度の差が大きい。
○学習内容が日常生活に効果的に結び付いていない。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○新型コロナウイルス感染防止に向けて、新しい生活様式を守った学習形態を最優先する。
○一斉指導が中心の授業展開にならないように、児童が主体となる授業づくりに努め、主体的・対話的で深い学びとなるような学習過程を工夫・改善していく。
○児童に「なぜだろう」という問いを常にもたせるような授業展開を行う。
○協働学習を推進して、学び方を身に付けさせる。
○学びのエリア内で、小中一貫教育を計画的に進める。
○タブレットやICT機器を活用した授業展開を行う。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、学力を向上させる。そのために、「読み解く力」の育成を目指す。「読み解く力」の育成が全ての教科等における学力向上を支えると考え、「読み解く力」を養うための学習の充実を図る。
○書くことを重視し、ノート指導の充実を図る。ノートへの記録を徹底し、さらに内容の充実を目指す。
○学校と家庭との学びの連続性や家庭学習の習慣化を図るため、板橋区家庭学習の手引きを活用して、宿題指導の工夫・改善を行い、基礎学力の向上を図る。
○授業の導入段階を大切に、児童が意欲をもって取り組むことのできる授業の構築を目指す。
○授業のはじめに、ねらいを明確につかませ、学習の見通しをもたせる。また、ねらいに対する振り返りの時間を必ず設け、授業で何を学んだのかを分かるようにする。⇒板橋区 授業スタンダードの実践。
○一人一台端末を効果的に活用することで、児童一人一人の学力に応じて、個別に最適化された学習内容を精選し、提供する。
○すべての児童に対して、公平で質の高い教育を実践するために、タブレット端末を活用し地域や家庭と連携を図って児童の学びを止めないようにしていく。⇒SDG`S17の目標の④の実践。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 問題解決型・探究型の授業 協働学習の導入	視点2 読み解く力の育成	視点3 指導と評価と支援の一体化
<p>☆なぜだろう、どうしてだろうと児童が自ら課題を見付け、課題解決のために試行錯誤する時間を確保する。 ☆意見や考えの交流を通して、よりよい考えを創り出す学び方を身に付ける。</p>	<p>☆全教科等で、読み解く力の6つの力の育成を意識し、文章や言葉を丁寧に扱う。読んだり、書いたりする学習活動を意図的に日常的に行う。 ☆「読み解く力」の育成に向けて、計画的、継続的な取り組みを全学年共通で行う。スタディアップタイム時に「視写」「作図」「校閲」を行う。</p>	<p>○自分の学びを振り返り、ねらいがどの程度達成できたのかを明らかにする。自分の考えを文章にきちんと表現する時間を確保する。</p>

(☆は、学びのエリアで共通)

■板橋区教育委員会グランドデザイン2017の実現に向けた取組

確かな学力の定着	教員の指導力向上	豊かな心と健やかな体の育成	「チーム学校」 保幼小中連携教育の推進
<p>○学習のねらいの明示と振り返り、まとめを行い、「板橋区 授業スタンダード」に基づいた授業を全学級で行う。 ○学習単元ごとに実施するテストの結果を分析し、補習すべき学習に取り組む、基礎学力の定着を図る。 ○タブレット端末の機能や、全国学力・学習状況調査、東京ベシックドリルを活用し、児童一人一人に応じた学習内容の理解と定着を図る。</p>	<p>○問題解決型の授業づくりを進め、授業改善に努める。そのため、校内研究を充実させ、互いに授業を見る、互いに授業について話し合うなど、校内OJTを積極的に実施する。 ○意図的・計画的な授業を実施し、基礎的・基本的な内容の定着を図り、児童の思考力・判断力・表現力の向上に結び付ける。</p>	<p>○全教育活動を通して心の教育の充実を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ○道徳の教科書に付随している道徳ノートを毎回必ず書かせ、評価の手立てとし、道徳の授業を充実させる。考える道徳、議論する道徳の実現に向けて授業を工夫・改善していく。 ○環境教育の年間計画の確かな実践を通して、豊かな心の育成を推進する。</p>	<p>○教育資源としての地域の環境、人材を生かした創造的な教育活動を推進し、積極的に地域に出かける活動を行う。（感染症防止のため、可能な範囲で実施する。） ☆学びのエリアで授業規律について情報交換を行い、9年間を通じて落ち着いた環境の中で学習に取り組めるようにする。</p>

(☆は、学びのエリアで共通)